



境港管理組合監査委員公告第1号

地方自治法（昭和22年法律第67号）第292条において準用する同法第233条第2項の規定に基づき審査を行い、令和3年9月10日付けで提出した「令和2年度境港管理組合歳入歳出決算審査意見書」に付した審査意見について措置を講じた旨の通知があったので公表する。

令和4年4月13日

監査委員 大 國 羊



監査委員 桐 林 正 彦



決算審査意見書に付した審査意見に基づき境港管理組合管理者が講じた措置

審 査 意 見	講 じ た 措 置
<p>境港の港勢拡大のための取組みについて （ア）新型コロナウイルス感染症への対応</p> <p>令和2年度の全体貨物取扱量及びコンテナ貨物取扱量は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、大幅な減少となった。</p> <p>一方、クルーズ船の寄港は、これまでの積極的な誘致の成果もあり、近年は、寄港数、乗客数ともに増加してきたところであるが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響でクルーズ船の運航が停止し、再開の見込みは立っていない。</p> <p>については、新型コロナウイルス感染症の状況に注視しつつ、対面によるポートセールス活動の再開準備やクルーズ船運航再開の情報収集など、引き続き誘致活動に努められたい。</p>	<p>（ア）新型コロナウイルス感染症への対応</p> <p>クルーズ客船誘致については、令和2年度には国内運航を再開していた邦船社に向け境港周辺の観光地視察を実施し、令和3年度に邦船3社から9件の予約を受けたが、国内の感染状況により、そのうち2件の寄港が実現し境夢みなとターミナル供用開始後はじめて客船が寄港した。外国船社クルーズについては、再開の見込みが立っていないが、国の水際対策やガイドラインの策定状況等を注視しながら受け入れ準備を進めていく。</p> <p>令和2年度は感染状況が落ち着いている間を利用して積極的に国内の船社や旅行会社訪問を実施し、できるかぎり対面での誘致活動を行った。引き続き国内の外国船社支社向け誘致活動を行いつつ、国際クルーズ再開に向け海外船社とのオンライン会議や国内外他港との連携により情報収集に努めながら、誘致活動を行っていく。</p>

(イ) 国内RORO船の定期航路化

国内RORO船は、陸送に代わる物流ルートとして活用への意識は高まってきたが、定期化の実現には至っていない。

については、民間企業との連携のもと、さらなる輸送実績を積み上げ、RORO船活用のメリット、デメリットを整理して定期航路化実現への取組を継続されたい。

(ウ) 施設等を活用した賑わいづくり

令和2年度は、国際定期貨客船(DBSクルーズ)やクルーズ船の乗客を境夢みなとターミナルで迎え入れ、白砂青松の弓ヶ浜サイクリングロード、公共マリーナを有効に機能させ、地域が一体となった賑わいづくりを推進しようとしていた。

しかし、国際定期貨客船(DBSクルーズ)の廃止に加え、新型コロナウイルス感染症の影響でクルーズ船の寄港が一度もなく、乗客を迎え入れることができず、施設の持つ特色、機能を有効に活用した地域の賑わいづくりに取り組むことができない状況が続いた。

については、新型コロナウイルス感染症の状況に注視しつつ、これらの施設を有機的に結び付けて活用することにより、この地域一帯の賑わいを創出できるよう、「竹内南地区賑わいづくり連絡会」をはじめとした関係者とともに取り組まされたい。

(イ) 国内RORO船の定期航路化

国内RORO船の定期航路化については、九州航路(敦賀-博多)の境港途中寄港による試験輸送を令和3年度に2回行い、これまでの試験輸送も含めて定期航路化に向けた課題を整理し今後の対応策について「境港内航RORO開設推進協議会」を通じて検討を進めている。なお、令和3年度からは同協議会に九州航路を運航する船社も参画したところであり、今後も海上輸送のメリット等効果の定量的把握や貨物需要の創出、行政支援の検討を行いつつ、船社、荷主企業、物流企業を含む民間と境港管理組合が一体となって定期航路化に向けた取組を推進する。

(ウ) 施設等を活用した賑わいづくり

境夢みなとターミナルにおいては、官民が一体となって新型コロナ感染対策に取り組んだ結果、令和3年には同ターミナルへの初寄港となる飛鳥Ⅱを含む2隻のクルーズ客船を受け入れたところであり、歓送迎セレモニーの開催や地元産品の物販、レンタサイクルの提供等、賑わいづくりの拠点としての機能を発揮しつつある。また、令和2年度からは竹内南地区の賑わいづくりの一環として既存施設を活用した釣場としての試験開放の取組みを開始し、釣場の安全性や運営方法、周辺施設と一体となった活用方法等について検討を進めているところである。今後も「竹内南地区賑わいづくり連絡会」等を通じ、関係者及び地域と一体となった地域の賑わい創出に努める。